

1) まず、ビンとふたの数がビツタリ合うのはどれか、見方がよい。
2) 1対1対応の線つなぎで確かめる。
3) 線引きの作業は精度が求められるので、鉛筆を使う方がいい。

a) 1対1対応による等・不等の判断になじむ。
b) 対応作業と不秩序な配列のつき合わせ体験。
c) 対応における大きさの描象。

□ 評
Date / Note

ビンとふたの数があうのはどれだろう?

